

東京芸術大学は、専門学校であった東京美術学校と東京音楽学校が昭和二十四年に新制大学として統合された、わが国唯一の国立の芸術大学であります。

東京美術学校の草創は明治十七年に文部省に置かれた図画調査会に溯り、翌十八年、その決議により文部省図画取調掛が発足、明治二十年東京美術学校と改称しました。

東京音楽学校は明治十二年、文部省に音楽取調掛が置かれたのがその始めで、明治二十年に東京音楽学校と改称、明治二十六年から一時期東京高等師範学校の附属音楽学校となりましたが、同三十二年には再び独立しました。

このように、両校の発祥の経過は異なっておりますが、明治二十年にはともに文部省直轄学校として学校体系の中に位置づけられました。以後今日にいたる道は必ずしも平坦ではありませんでしたが、時に当たった先輩諸氏の努力によって、多くの人材を養成し、わが国の芸術の分野において重要な役割を果たしてきました。

昭和六十二年に創立百周年を迎えた本学は、その記念事業の一環として、同年よりわが東京芸術大学百年史の刊行をはじめました。以来十年を経て本巻を刊行するいま、永年の願望でありました新奏楽堂が平成九年の完成を目指し、また、芸大美術館も平成十年の竣工予定で現在工事が進行中であります。二十一世紀に向かって本学はここに新たな一步を踏み出そうとしていきます。

この時にあたり、百年に渡る資料を調査収集し編纂することは大変に有意義なことと存じます。このために長期の時間と努力を費やされた方々と御協力いただいた方々に心から感謝申し上げますとともに、今後の大方の御協力をお願い申し上げます。

平成九年三月



ごあいさつ

美術学部長 大沼映夫

既刊の東京芸術大学百年史・東京美術学校篇第一巻、第二巻に次いで、ここに漸く第三巻の刊行に至りました。本巻には大正九年から昭和二十七年までの東京美術学校が資料に基づいて記述されています。この期間は、名校長と言われた正木直彦のもとにわが国唯一の国立美術学校としての体制を樹立した同校が、美術界や教育界その他諸般の情勢の変化に対応しつつ教育・研究活動を展開し、戦時下の抑圧された暗い時代を経て、やがて美術の学園としての姿を取り戻すまでの長い期間にあたります。記述には膨大な資料が土台となっており、戦時下および終戦直後の、記録資料に乏しい時期に関しても、各方面のご協力を得て極力資料を集め、時代の推移を把握できるように編集の配慮がなされており、また、この時期の希有な記録資料である『上野直昭日記』も別巻として同時に刊行されますので、内容がより密度の高いものとなっております。

本巻の刊行によって、創立以来六十五年間の学校の歴史を通観できるようになったわけですが、編集に携わった方々のご苦勞を思い、また、御協力頂いた多くの方々に深く感謝いたしますと同時に、本書が広く読まれ、お役にたつことを祈ります。

平成九年三月

